

第1回 (仮称) 江東区新庁舎建設基本計画 アドバイザリー会議

議事要旨

日時	2025年12月3日(水) 18:30~20:00		
場所	江東区文化センター6階 第3会議室		
出席者 (オンライン参加含む)	学識経験者・有識者 (委員五十音順)	会長	芝浦工業大学 建築学部 教授 志村 秀明会長
		副会長	東京大学 生産技術研究所 教授 加藤 孝明副会長
	委員		東洋大学 経済学部 教授 芦谷 典子委員
			東洋大学 福祉社会デザイン学部 教授 菅原 麻衣子委員
			江東区 CIO 補佐官 (アビームコンサルティング) 三上 泰地委員
			日本大学短期大学部 建築・生活デザイン学科 准教授 山崎 誠子委員
事務局	江東区	半田新庁舎整備推進課長 小林企画課長 棚瀬 DX 推進課長 新居防災計画課長 朽谷区民協働・交流推進担当課長 谷川都市計画課長 新庁舎整備推進課職員	
	基本計画策定支援業者 株式会社日本総合研究所		
議事	1. 会長及び副会長の互選について 2. 会議の運営等について 3. 検討経緯及び検討状況について		

■会議概要

1. 会長及び副会長の互選について

- ・互選により志村委員を会長に、加藤委員を副会長に選任した。

2. 会議の運営等について

- ・会議の運営及びオンライン出席に関する規定について説明した。

3. 検討経緯及び検討状況について

- ・導入機能の方向性と具体化に向けた論点等について意見を頂いた。

(1) 防災機能

- ・庁舎に本来必要な機能は浸水想定に余裕をもった上層配置とし、リスク根拠や過去被害を踏まえ基準を設定すべき。
- ・水害時に数日孤立する可能性を見据え、庁舎は災害時の司令部として機能しつつ、

一時滞在の視点が重要。また、周辺の避難先としての機能まで拡大するのか等、庁舎の防災上のコンセプト整理が必要。

- ・想定浸水以下の階も、容易に復旧できる利用方法を工夫すべき。
- ・周辺との一体整備は、防災、特に水害対応でも効果が高い。

(2) 交流・協働機能

- ・高校生等若い世代の居場所が議論から抜けやすく、多世代の意見をどの視点で集約するかが重要。
- ・DXの進展により手続きは庁舎外でも可能となり、新庁舎の交流機能は公園・カフェ・図書館などと比較されるような場となる。
- ・民間機能の導入により、交流・協働を促す複合的な場を形成する方法もあり得る。

(3) 性能（環境性能）

- ・地上部の緑を重視し、長期的維持方針を含めてデザインすべき。
- ・木材利用は価格・防火・劣化の対応が必要で、50年続く使い方の検討が重要。
またシンボリックな利用が考えられる。
- ・庁舎周辺のみどりとのネットワーク形成を描くことや、木材を活用した地域イベントも想定すべき。